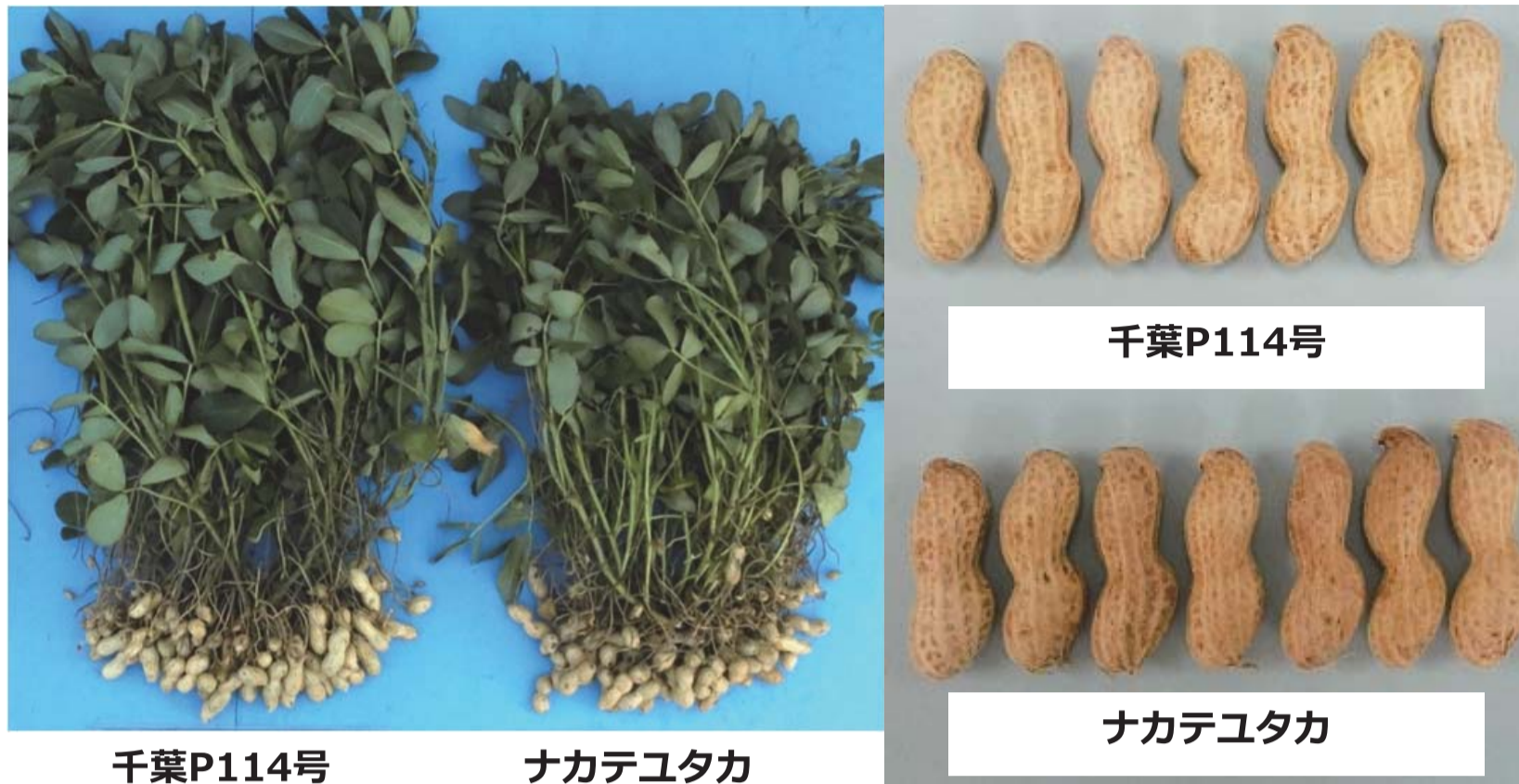


# 落花生「千葉P114号」の栽培方法

\* 品種登録出願中 (出願番号：第29951号 出願年月日：平成27年2月27日)



千葉P114号

ナカテユタカ

千葉P114号

ナカテユタカ

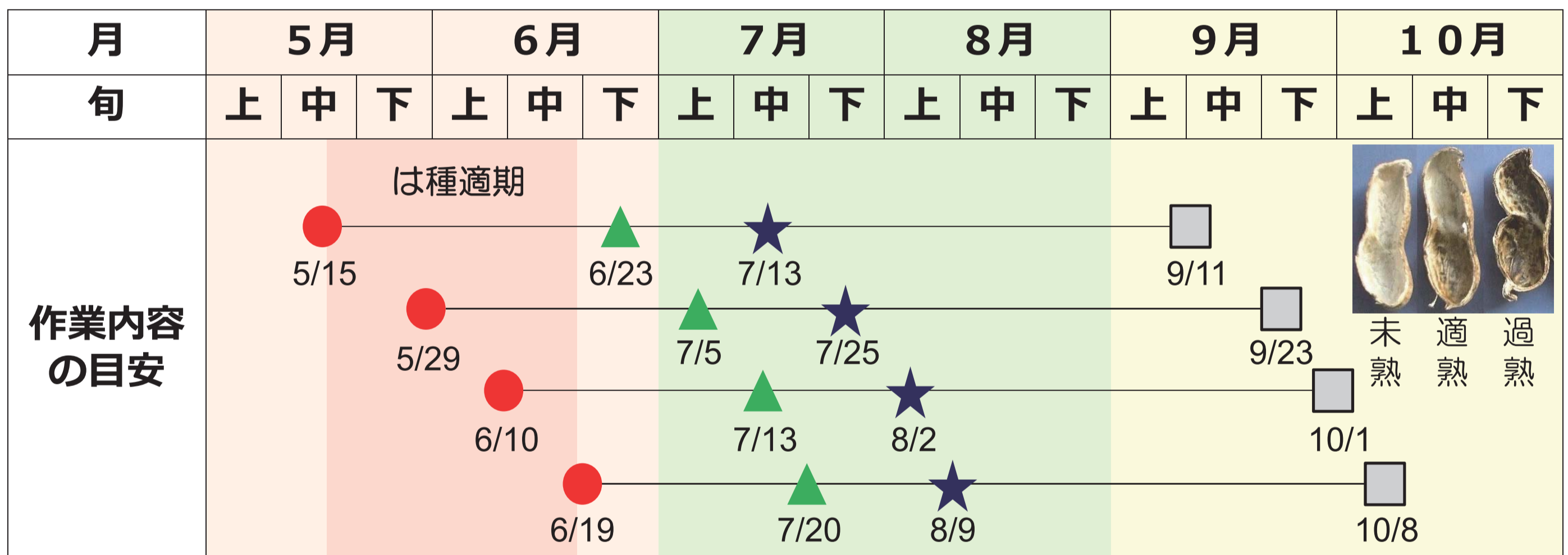
## 品種特性

(「ナカテユタカ」と比べて)

- ◆ 幼芽褐変症が少なく、出芽率が高い
- ◆ 草型は立性、分枝は少ないが長い
- ◆ 収量性は同等で多い
- ◆ 莢は白く、外観が良い
- ◆ ショ糖含量が高く、甘みが強い
- ◆ 莢および子実はやや小さい

## 千葉P114号の生育・収量の目安

最長分枝長	分枝数	10a当たり収量	1株当たり全莢数	上実百粒重
55~65cm	15~20本	400~500kg	40~50個	90g



● は種 ▲ 開花期 ★ かん水 ■ 収穫

※記載の日付は過去3年の結果からの推定

## 栽培のポイント

### (1) 肥料は慣行の基準に従う

- 施用量は「ナカテユタカ」などと同程度とする
- 窒素：リン酸：加里 = 3：12~15：12~15kg/10a
- 苦土石灰：60kg/10a

### (2) 株間30cmの2条植えて、1粒まき

- 9230 (幅95cm、2条、条間45cm、株間30cm) のマルチが最も適する。株間を狭めると株が徒長し、収穫時の作業性が悪くなるおそれがある
- は種粒数は1粒まきを基本とする
- 2本立ちは株が徒長しやすくなる

### (3) は種適期は5月中旬から6月中旬

- 早まきよりも遅まきの方が、ショ糖が高くなり、分枝が短くなり徒長を抑えることができる
- カラス対策としてキヒゲンR2フロアブルを使用する

### (4) かん水は開花期後20日頃に行う

- かん水は開花期後20日に行うと増収する
- 1回目のかん水後も乾燥が続く場合は1週間後を目安に再度行う
- 開花期後40日のかん水は幼芽褐変症の発生を抑制するが、ショ糖含量低下の原因となる
- そのため採種栽培の場合は開花期後40日前後のかん水を推奨するが、一般栽培の場合は、ショ糖含量を低下させないために40日以降のかん水は控える

### (5) 収穫適期は開花期後80日頃

- 開花期後85日を過ぎると過熟による不良子実が増え、年次によっては落ち実の発生も多くなることがあるので、掘り遅れには十分注意する
- 年によって成熟の速度が異なるので、収穫適期の1週間前に試し掘りを行い、莢殻の裏を見て熟度を確認する